

自然再生士とランドスケープアーキテクト

景域計画 株式会社／自然再生士 八色 宏昌

自然再生士とランドスケープアーキテクト

私はランドスケープアーキテクトとして、都市における生物多様性が保たれた緑地の再生・創出、都市近郊の森林再生、工場緑地や研究所の既存緑地の改善などの課題に対応するために、ランドスケープに関する調査・計画・設計に携わっています。

自然環境の再生、復元にあたっては、人為的影響により本来の地形や水環境、土壌、植生などが大きく失われて、既存の自然環境を改善する保全管理や小規模な環境整備だけでは、根本的な解決策とはならない場合があります。このようなとき、自然再生の視点から地形や土壌、植物や構造物を適切に扱うことが、ランドスケープデザインにおいて重要になることがあります。具体的には、造成設計における地形の再生や、植栽基盤設計における土壌環境の改善、植栽設計における植生の再生、施設設計における多孔質空間の創出などが求められます。

自然再生におけるデザイン

自然再生のデザインにおいて重要となる視点として、①対象地の自然環境の目標を適切にとらえること、②対象地の環境ポテンシャルを把握すること、③長期的視点から自然環境を構成する植物や自然素材などの組合せを最適化すること、④対象地の適切なマネジメント体制を構築する、もしくは踏まえたデザインとすること、⑤機能と意匠の両面において人々に受け入れられる環境を創造することがあると考えています。対象地の自然環境の課題を的確にとらえて、目標とする自然環境を設定する環境のデザイン、自然環境を構成する土壌や植物などを対象に環境を構築するフィジカルなランドスケープデザイン、経営的な観点をもち、施設整備や管理運営体制を構築するマネジメントのデザインが求められることとなります。

デザインにおけるコーディネート

公益性の高い自然環境を再生する一連のデザインプロセスにおいては、地域住民や公共団体、民間などの事業主や、土地所有者や近隣住民、利用者などの利害関係者が多く関わってきます。また、整備が始まった段階から、施工者、生産者などの多様な職能集団がチームとなり、協働作業を行うこととなります。自然再生におけるランドスケープアーキテクトは整備段階において関係者との協働やコーディネートを適切に行うことが求められます。ここでは、各々の技術や知識を最大限に発揮するために建設的かつ創造的なコミュニケーションが重要になります。

都市を担う自然再生

自然再生士は社会科学と自然科学の両分野にまたがる職能であると考えています。国土形成計画(平成 27 年)においても自然環境が有する機能を社会におけるさまざまな課題解決に活用しようとするグリーンインフラを推進しており、都市機能を補完するものとして自然環境が有する機能が着目されています。都市においては、生物多様性の保全を第一の目的とした自然再生の事業に加えて、今後は、自然環境を都市や生活環境の課題を解決するインフラとしてとらえて自然再生を行う事例が増していくことが予想されます。ここでは、自然再生の事業が都市機能の持続性や経済性からみて優位性が見込まれるか、社会課題も含めた解決策が併せ持たれているか、私たちの生活を取り巻く日常の生活環境に受け入れられるものか、といった視点が求められます。

今後は、自然再生に関する動植物や環境に関するしつかりとした知識や、生態工学などの技術を兼ね備えるだけでなく、私たちが都市や生活のあり方も俯瞰したうえで、都市の課題もとらえた技術者として活躍することが期待されます。